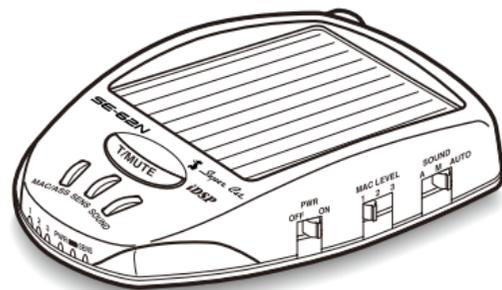


SE-62N

取扱説明書



このたびは、スーパーキャットのレーダー探知機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。

2電源方式 / 12V/24V車対応

⚠ 注意

この取扱説明書をよくお読みのうえ、安全運転のよきパートナーとして正しくお使いください。なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

目次

はじめに	安全上のご注意	2
	主な特長	6
	ご使用にあたって	7
	各部の名称と働き	8
	電源について	10
取り付けかた	フロントガラスに取り付ける	14
	ダッシュボードに取り付ける	16
使いかた	音量/警報音/受信感度を設定する ...	17
	MACシステムの使いかた	21
	MACレベルスイッチについて	22
	ASS機能について	23
	便利な機能について	24
	警報機能について	25
	iDSPについて	26
その他	受信しにくい場合	31
	取締りのミニ知識	32
	故障かな?と思ったら	34
	仕様	36
	アフターサービスについて	37
	無料修理規定	39
	保証書	裏表紙

初めてご使用になるときは、付属のシガープラグコードを使い、15時間以上(例 1日3時間で5日)、充電しながらご使用ください。

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、次の表示で区分し、説明しています。

警告：この表示は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

注意：この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

絵表示について

-  この記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
-  この記号は、してはいけない「禁止」内容です。
-  この記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

-  水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない…火災や感電、故障の原因となります。
-  穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。

警告

-  機器本体および付属品を改造しない…火災や感電、故障の原因となります。
-  運転中は絶対に操作しない…わき見運転は重大事故の原因となります。また、設定は停車中に、パーキングブレーキを確実にかけた状態で行ってください。
-  取り付けは、運転や視界の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付ける…誤った取り付けは、交通事故の原因となります。
-  万一、破損した場合は、すぐに使用を中止する…そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。
-  警報したときに慌ててブレーキをかけたりしない…走行中に急ブレーキをかけたりすると大変危険です。
-  バッテリーに直接接続しない…火災や感電、故障の原因となります。
-  サービスマン以外の人、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない…感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。
-  医用電気機器の近くでは使用しない…植込み型心臓ペースメーカーや、その他の医用電気機器に電波による影響を与える恐れがあります。

⚠警告

シガープラグコード使用时

-  電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない…感電やショートによる発火の原因となります。
-  表示された電源電圧車以外では使用しない…火災や感電、故障の原因となります。また、ソケットの極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。
-  シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよくふく…接触不良を起して火災の原因となります。
-  煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない…発火の恐れがあります。すぐにシガープラグを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。
-  シガーライターソケットは単独で使う…タコ足配線や分岐して接続すると、異常加熱や発火の原因となります。
-  助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしない…万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、シガープラグ使用时に配線が妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。
-  シガープラグは確実に差し込む…接触不良を起して火災の原因となります。
-  ぬれた手でシガープラグの抜き差しをしない…火災や感電、故障の原因となります。

⚠注意

シガープラグコード使用时

-  取り付けは確実に…落ちたりして、ケガの原因となります。
-  シガープラグコードを抜くときは、電源コードを引っ張らない…コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。必ずシガープラグを持って抜いてください。
-  車から離れるときは、電源を切る…本機はオートパワーOFF機能を搭載していますが、使用しないときは電源スイッチで電源を切ってください。特にシガープラグコードを接続している場合は、シガーライターソケットに常時、電源が供給される車種があります。また、長期間ご使用にならないときはシガープラグを抜いてください。
-  お手入れの際は、シガープラグを抜く…感電の原因となります。

日頃から安全運転をお心がけてください

このレーダー探知機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。レーダー方式以外の赤外線や光電管式、ループコイル式などのスピード測定装置には反応しません。また、電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輛通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。「いつも鳴るから」と安心せずに注意してください。
※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

主な特長

1 iDSP*

統合的デジタル信号処理技術(iデジタル)により、超高精度識別を実現。

※integrated Digital Signal Processing Technologyの略です。

- ① Nシステム検知…「自動車ナンバー自動読み取り装置」(Nシステム)を検知すると、取締り機とは区別して、Nシステムアラームでお知らせ。[特許出願中]
- ② 新Hシステム識別…通常波と区別して音(特別な電子音)と光(アラームランプ/シグナルメーター)でお知らせ。
- ③ ステルス識別…通常波と区別して音(特別な電子音)と光(アラームランプ/シグナルメーター)でお知らせ。
- ④ GPS排除
カーナビのモレ電波を識別し、誤警報を排除。さらに、温度変化などによる周波数ズレを自動補正。
[特許 第3044004号]

2 EXTRA/エクストラ感度

ハイレベルの受信性能を徹底追求したエクストラ感度。

- Wスーパーヘテロダイン…スイープオシレーター式 超高精度受信方式。[特許 第1720227号]
- X・Kツインバンド…Xバンド/Kバンドの2バンド対応。
- 後方受信…後方からの取締りレーダー波も確実にキャッチ。

3 アラーム機能

- ① マルチメロディアラーム…10曲のマルチメロディの中から選んだ、お好みのメロディで警報。また、毎回ランダムに曲目を変えて警報することもできます。
- ② Wアラーム方式…音(メロディ/電子音)&光(アラームランプ/シグナルメーター)のダブルで警報。
- ③ 接近テンポアップシステム…取締り機に近づくに従い、電子音がテンポアップ。

4 自動制御機能

- ① ASS*/最適感度選択…走行時間の経過に応じて、最適の受信感度を自動的に選択。
[特許 第3051676号]
※Auto Sensitivity Selectionの略です。
- ② MAC*/不要警報カット…自動ドアなど、低速走行中や停車中のムダな警報を自動的にカット。
※Motion-sensor Alarm Controlの略です。
- ③ オートディマー…ランプ点灯から、約30秒で自動的にライトダウン。
- ④ オートクワイアット…アラームの鳴り始めから、約30秒で自動的にボリュームダウン。
- ⑤ オートパワーOFF…駐車後、電源を切り忘れても、約3分後に自動的に電源OFF。
- ⑥ ローバッテリーアラーム…バッテリーの充電が必要になると、音&光のダブルでお知らせ。

ご使用にあたって

まず最初に充電します

初めてご使用になるときは、付属のシガープラグコードを使い、15時間以上(例 1日3時間で5日間)充電しながらご使用ください。

使用上のご注意

- 一部の車種に採用されている断熱ガラスは、電波の透過率が低いため、探知距離が短くなることがあります。
- 本機は、赤外線や光電管、ループコイル式スピード測定装置には反応しません。

動作温度範囲について

- 本機は、 -10°C ~ $+85^{\circ}\text{C}$ まで正常な動作が保証されています。夏、冬とも安心してご使用ください。(充電可能温度範囲は、 -5°C ~ $+85^{\circ}\text{C}$ です。厳寒地でご使用になる場合は、付属のシガープラグコードでご使用ください)

本機は専用のニッケル水素電池を付属しています。付属の電池は本機専用で、ほかの機器に使用することはできません。また安全のため専用の電池以外は本機に使用できません。電池を交換する場合は、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

付属品

■ご使用前に付属品をお確かめください。

- ニッケル水素電池(1)
- フロントガラス/ダッシュボード兼用ブラケット(1)



- シガープラグコード(1)



- 吸着盤(2)
- マジックテープ(1)
- 取扱説明書・保証書(1)

別売品のお知らせ

- 電源直結コードOP-4 1,500円(税別)
シガーライターソケットを使わず、アクセサリ系端子から直接電源をとれます。(コード長約4m)
- 交換用ニッケル水素電池 1,500円(税別)

本機を取り付けてのスピード違反に関しては、弊社では一切の責任を負いかねます。日頃からの安全運転をお心がけください。

各部の名称と働き

本体

DCジャック[DC12/24V] (12/24V車対応)
付属のシガープラグコードを接続します。(11ページ)

テスト&ミュートボタン[T/MUTE]
警報音、電池残量の確認やミュート機能を使うときに押します。
(17、19、24ページ)

音量つまみ[VOL]
警報音の音量調節ができます。(17ページ)

受信感度セレクトボタン[SENS]
MACシステムを解除しているときは、走行環境や条件に
合わせて受信感度が選べます。(19ページ)

MAC/ASSボタン[MAC/ASS]
MACシステムの設定/解除ができます。MACシステムをONに
設定すると、自動的にASS機能が働きます。(21ページ)

シグナルメーター[1~3]
受信している取締りレーダー波の強さに応じて、点灯数が左から右へ
増えていき、右端に達すると、すべてが点滅します。(25ページ)

アラームランプ
受信している取締りレーダー波の強さに応じて点滅速度が変化します。(25ページ)

Nシステムセンサー(前面)
Nシステムを検知します。(28ページ)

アンテナ(前面)
取締りレーダー波を受信します。

ソーラープレート
太陽光からの充電ができます。

警報音セレクトスイッチ[SOUND - A M AUTO]
取締りレーダー波受信時の警報音が選べます。(18ページ)

MACレベルスイッチ[MAC LEVEL]
MACシステムの振動の検出感度の調整ができます。(22ページ)

電源スイッチ[PWR]
ONにすると電源が入ります。(17ページ)

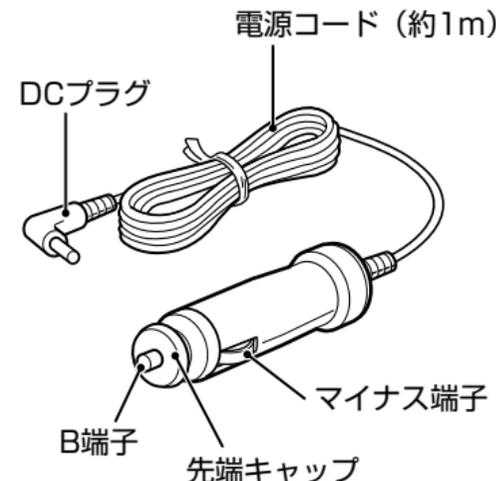
メロディセレクトボタン[SOUND]
取締りレーダー波受信時の警報音のメロディが選べます。(19ページ)

感度ランプ[SENS]
受信感度をランプの色で表示します。(19、23ページ)

バッテリーランプ[]
テスト&ミュートボタンが押されている間はバッテリーの残量を
表示し、バッテリーが消耗してくると点滅します。(12、13ページ)

パイロットランプ[PWR/MAC]
電源が入ると点滅します。また警報の状態をランプの
色で表示します。(17、21、23ページ)

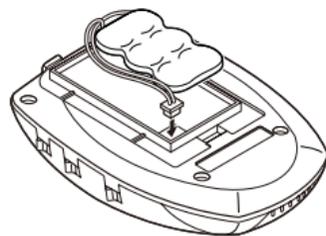
シガープラグコード



■ソーラーバッテリーの充電と使用方法

付属のニッケル水素電池を接続する

本体底面のソケットにコードのプラグを差し込みます。



本機はシガーライターソケットからの充電・使用に加え、ソーラープレートによる太陽光からの充電ができます。

初めてご使用になるときは、付属のシガープラグコードを使い、充電しながらご使用ください。(走行中、駐車中にも太陽光から充電されますが、気象条件、使用環境に左右されないより確実な初期充電を行うことができます)

シガープラグコードで充電する場合、バッテリーアラームが鳴った状態からは、約15時間(例 1日3時間で5日間)でフル充電できます。

電源スイッチのON/OFFに関係なく充電できます。

1度充電したあとは、バッテリーランプが点滅を始めるまで、シガープラグを抜いて、そのままお使いください。

※初期充電を充分に行えば、使用中のバッテリーの消費分は、走行中や駐車中に太陽光からの充電で補充されます。

フル充電したあとは、まったく充電されない状態でも約60時間*(無警報時)の連続使用ができます。

※連続使用時間は、各種機能の設定状態により異なります。

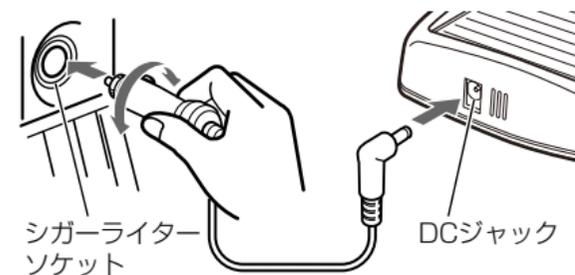
内部のバッテリーには寿命があります。充電が充分でなくなったら、新しいものと交換してください。(使用状況にもよりますが、約3~5年を目安にしてください)交換については、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

冬期は、日照時間やソーラーバッテリーの性能上、充電しにくくなる場合があります。バッテリーアラーム機能がひんぱんに働くときは、シガープラグコードを接続した状態での使用をお勧めします。

シガーライターソケットからの充電と使用方法

付属のシガープラグコードを、DCジャックと車のシガーライターソケットに差し込む

シガープラグは、2、3回左右にひねりながら差し込みます。



シガーライターソケット

DCジャック

⚠ 警告



助手席エアバックの妨げとなる場所に配線しないでください。電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しなかったり、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。

- 本機はDC12V/24V(マイナスアース)車対応です。
- シガープラグコードで充電する場合、バッテリーアラームが鳴った状態からは、約15時間でフル充電できます。
- シガープラグコードは、必ず付属のものをご使用ください。
- シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、同じ容量(1A)の新しいヒューズと交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、使用を中止し、シガープラグを抜いてお買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。
- シガープラグ内部には、ヒューズとスプリングが入っています。ヒューズ交換の際は、部品の紛失に注意し、順序を合わせて入れてください。
- 一部の車種においては、シガープラグの形状が合わないことがあります。その場合は、別売のOP-4を使用してください。(7ページ参照)
- 本機をバッテリーなどと直接接続すると破損の原因となります。絶対におやめください。
- シガープラグコードで充電・使用するときは、MACシステムは正常に動作しないことがあります。その場合はMACシステムを解除してご利用ください。

■オートパワーOFF機能について

アイドリングなどの振動の少ない状態(停車中)や、エンジンを切ったときなど振動のない状態(駐車中)が約3分以上続くと、自動的に電源が切れます。(振動を検出すると電源が入ります)

※ 振動や騒音の激しい場所では、わずかな揺れを検出して電源が切れないことがあります。
使用しないときは電源スイッチで電源を切ってください。

※ 走行中でも、停車や低速運転などで、振動を検出できない状態が約3分間続いた場合にはオートパワーOFF機能が働きます。

バッテリー表示機能について

■ローバッテリー表示について

初期充電不足や太陽光が当たらない条件下での使用が続きバッテリーが消耗してくると、バッテリーランプが点滅し、ローバッテリーアラーム(🔔)ビビッ…ビビッ…が鳴り出します。このようなときは充電が必要です。付属のシガープラグコードを使い、充電しながらご使用ください。

バッテリーの状態	バッテリーランプ
バッテリーが消耗し、充電が必要な状態	赤色点滅 
バッテリーが消耗し、 <u>すぐに</u> 充電が必要な状態 (探知機能は動作しなくなります)	赤色点滅   ローバッテリーアラームが鳴ります(約1分間)

■バッテリーの残量表示について

シガープラグコードを抜いた状態で、テスト&ミュートボタンを押している間、バッテリーの残量の状態を表示します。

バッテリーの状態	バッテリーランプ
残量が十分な状態	緑色点灯 
少し消耗した状態	オレンジ色点灯 
充電が必要な状態	赤色点灯 

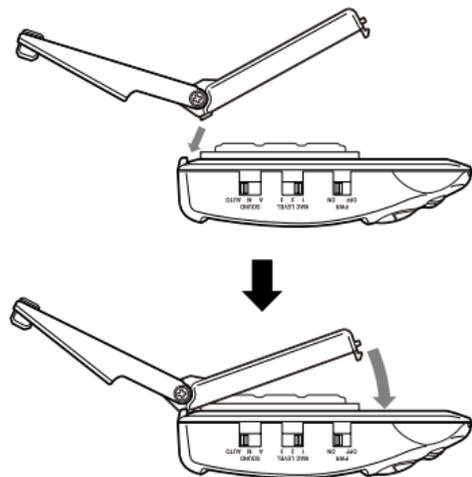
- シガープラグコードをDCジャックに差し込んだ状態では、バッテリーの残量表示はしません。
- 電源を入れても、数分間はバッテリー残量を正しく表示できないことがあります。
- 温度が極端に高いところまたは低いところでは、バッテリー残量を正しく表示できないことがあります。

フロントガラスに取り付ける

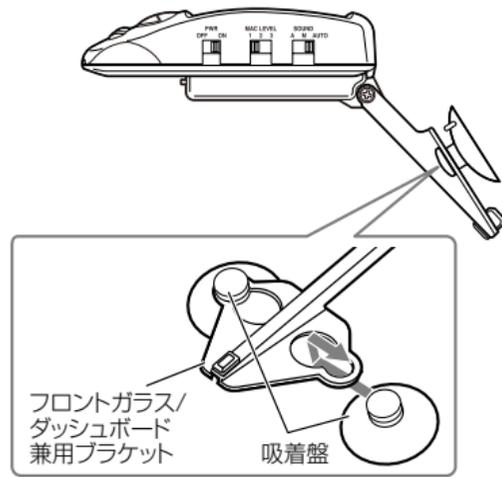
取り付けかた

1 フロントガラス/ダッシュボード兼用ブラケットを本体に取り付ける

コードを挟まないように注意して閉めます。

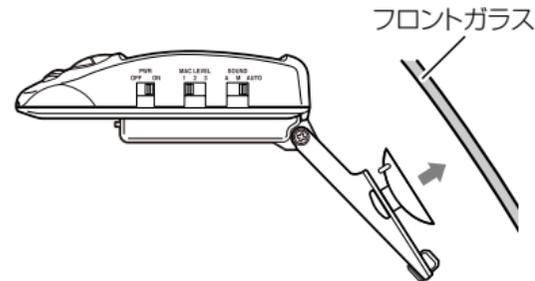


2 フロントガラス/ダッシュボード兼用ブラケットに、吸着盤を取り付ける



3 フロントガラス下部に貼り付ける

吸着盤に水などをつけて、フロントガラスの中央下部の日光の当たる場所に貼り付けます。

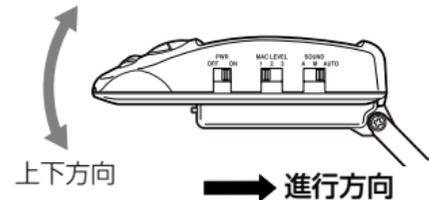


アンテナの前に他の機器のアンテナや金属、ゴムなどの障害物がこないように取り付けます。

※ 湾曲のきつい部分へは取り付けしないでください。取り付けが安定しないばかりでなく、振動を検出しにくくなり走行中でも電源が切れることがあります。(オートパワーOFF機能)

4 道路に対して、本体を水平にする

アンテナが水平になるように、本体の角度を調整します。



警告

！ 運転や視界の妨げにならない場所、また自動車の機能(ブレーキ、ハンドルなど)の妨げにならない場所に取り付けてください。誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

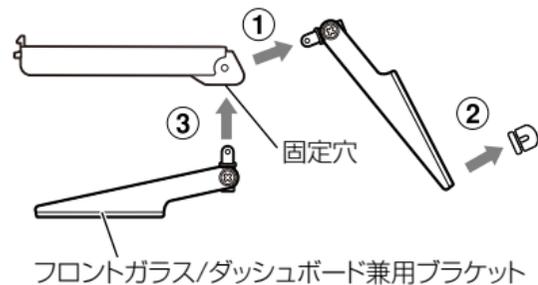
注意

！ 取り付けは確実に行ってください。落ちたりして、ケガの原因となります。

取り付けかた

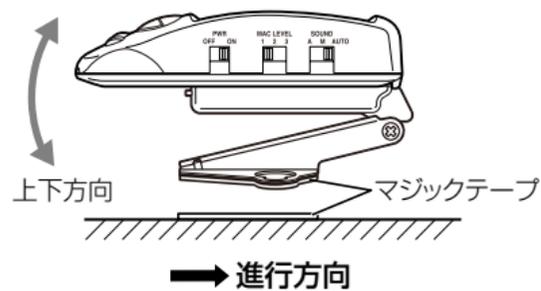
ダッシュボードに取り付ける

- 1 付属のブラケットから①フロントガラス/ダッシュボード兼用ブラケットを外し、②ラバークッションを取りはずす。③下部の固定穴に取り付け直す



- アンテナの前に他の機器のアンテナや、金属、ゴムなどの障害物がこないような場所に取り付けてください。
- あらかじめ、貼る場所のチリや汚れ、脂分をよく落とし、慎重に行ってください。貼り直しは、テープの接着力を弱めます。
- 使用中、本体が傾くような場合は、ネジの締め付けを行ってください。

- 2 付属のマジックテープで貼り付け、本体を道路に対して水平に、またアンテナが進行方向(前方)を向くように、角度を調整する



警告

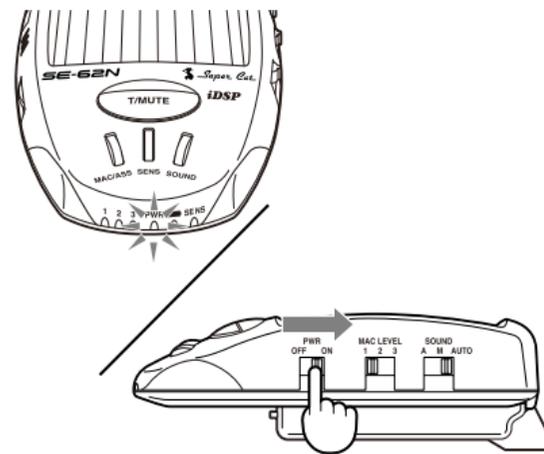


エアバックの上に取り付けしないでください。万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。

音量/警報音/受信感度を設定する

※設定は、必ず停車中にパーキングブレーキを確実にかけて行ってください。

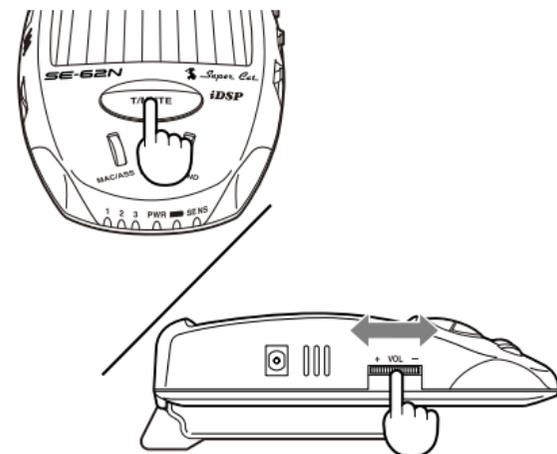
- 1 電源を入れる
電源スイッチをONにします。



ターン・オン・ビープ (㊦)ピロツピロツ…) が鳴り、パイロットランプが点滅します。

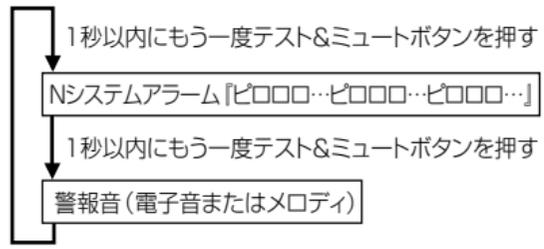
※節電のためパイロットランプは点滅で動作します。

- 2 音量を調節する
テスト&ミュートボタンを押しながら、音量ツマミを回します。



押している間はテストモードとなり、警報音(電子音またはメロディ)が鳴り続けます。

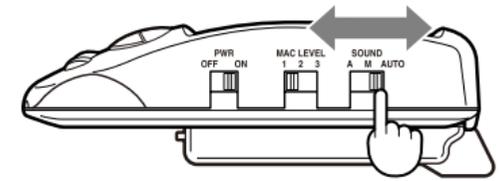
使いかた



テスト&ミュートボタンを押す前から警報機能が働く場合は、近くで発信されている取締りレーダー波と同じ電波を受信しているためです。この状態でボタンを押すと、ミュート機能が動き、警報音が止まります。(24ページ参照)

3 警報音を選ぶ

警報音セレクトスイッチで切り換えます。



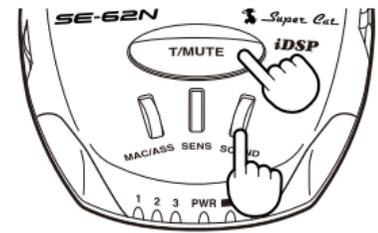
お好みに合わせて選びます。

	電子音アラーム(A)
	メロディアラーム(M) 10曲の中から選んだ曲で警報します。
	ランダムメロディアラーム(AUTO) 毎回ランダムに曲目を変えて警報します。

• 選択した警報音はテスト&ミュートボタンを押すことで確認できます。

4 曲目を選ぶ

メロディアラーム(M)に切り換えた状態で、テスト&ミュートボタンを押しながら、メロディセレクトボタンを押します。



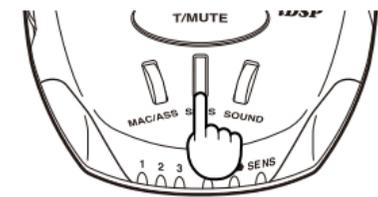
メロディセレクトボタンを押すごとに曲目が変わります。

SE-62N	
① 「エレクトリカルバレード」	⑥ 「めざせポケモンマスター」
② 「懐吾ママのおはロック」	⑦ 「ゴジラのテーマ」
③ 「ホテル パシフィック」	⑧ 「ミッション・インポッシブルのテーマ」
④ 「ライディーン」	⑨ 「東京/中山G1ファンファーレ」
⑤ 「オプラディ・オプラダ」	⑩ 「阪神/京都G1ファンファーレ」

5 受信感度を選ぶ

受信感度セレクトボタンで切り換えます。

MACシステムがON(パイロットランプが赤色または緑色の点滅)の状態では、『ピピッ』と鳴り、感度は切り換わりません。MAC/ASSボタンを押して、OFF(パイロットランプがオレンジ色の点滅)の状態にしてください。(21ページ参照)



感度ランプの点滅色は、ボタンを押すたびに切り換わります。



使いかた

音量/警報音/受信感度を設定する

受信感度について

受信感度が高いほど、遠くの電波を受信できますが、取締りレーダー波と同じほかの電波も受信してしまいます。走行環境や条件に合わせて、受信感度をお選びください。また、受信感度が高いほど、新Hシステムなどの受信には有効となります。

■受信感度の切り換え

受信感度		走行環境や条件
高い ↑	エクストラ感度モード	郊外や高速道路
低い	カットダウンモード	市街地

MACシステムに設定すると、選択した受信感度モードにかかわらずASS機能が働き、走行時間の経過により受信感度がカットダウンモードからスーパー感度、エクストラ感度へと変化します。(23ページ参照)

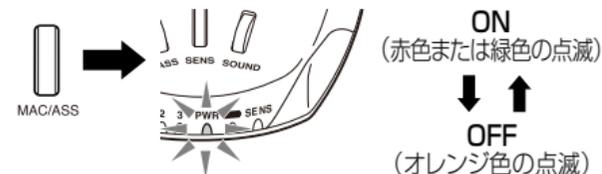
MACシステムの使いかた

MACシステムは、内蔵のモーションセンサーが走行中のロードノイズなどの連続的な振動を検出して、走行中か停車中かを判断し、警報を制御します。

アイドリングなどの振動の少ない状態(停車中)や、エンジンを切ったときなど振動のない状態(駐車中)が約3分以上続くと、オートパワーOFF機能が働き、電源が自動的に切れます。また、発車したり、エンジンをかけたり、アクセルを踏んだりすると、自動的に電源が入ります。低速走行/停車中の警報を抑え、駐車中に電源を切り忘れたときなどのバッテリーの消耗を抑えます。

1 アイドリング中に電源をONにする

パイロットランプが赤色または緑色の点滅になります。パイロットランプがオレンジ色の点滅のときは、OFF(解除)の状態ですので、MAC/ASSボタンを押してONにします。



MAC/ASSボタンを押すたびに、MACシステムのON/OFFが切り換わります。

2 動作を確認する

走行しはじめて速度が上がると、数秒後にパイロットランプが緑色の点滅になり、停車すると、数秒後に赤色の点滅になります。

3 調整する

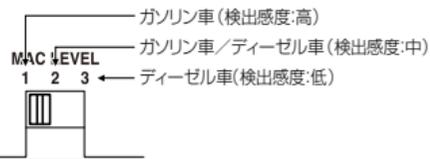
手順2で正しく動作しない場合は、MACレベルスイッチを切り換えてください。(22ページ参照)

MACレベルスイッチについて

MACレベルスイッチについて

MACシステムは、走行中のロードノイズなどの連続的な振動と、停車中のアイドリングなどによる振動の種類や大きさの差を検出し、動作します。ご使用になる車種や走行状況に合わせてMACレベルスイッチを切り換え、振動の検出感度を調整してください。

■MACレベルスイッチの設定目安



目安として、速度が約30km/hになるまでに、パイロットランプが緑色の点滅になる位置にしてください。

※MACの働きによりパイロットランプが赤色に点滅中は警報しません。(取締りレーダー波を受信しません)

•MACレベルスイッチを切り換えても、振動を検出しにくい場合は取り付けかたを変えてください。フロントガラスに取り付けている場合にクラベダッシュボードに取り付けた方が振動を検出しやすくなります。

※またMACレベルスイッチが正しい位置に設定されず振動を検出しにくい場合、オートパワーOFF機能の働きにより走行中に電源が切れることがあります。

•振動が極端に大きな車種や、走行中と停車中の振動に違いの少ない車種では正常に働かないことがあります。そのような車種では、MACシステムを解除してご使用ください。

※MACシステムを使用しない場合はMACレベルスイッチは1に設定してください。

•エアコンを使っているときや、カーオーディオなどの音量が高いとき、ワイパーを使用しているとき、エンジンをかけた直後(エンジンが安定するまで)などは、MACシステムが正常に働かないことがあります。

•オートパワーOFF機能は、MACシステムの設定/解除にかかわらず動作します。

ASS機能について

パイロットランプの点滅色と警報動作

MACシステムに設定すると、ASS機能が働いて低速走行/停車中の不要な警報を抑え、走行時間の経過に応じて受信感度が変化します。また、スーパー感度からエクストラ感度へ自動的に変化するとき、「ピッポッ」という確認音が鳴ります。

	車の状態	停車	走行中 (MACレベルスイッチの調整により、一定の振動を超えたとき)	停車
設定時 MACシステム	パイロットランプ	赤色点滅	約20秒 → 約120秒 → それ以降	赤色点滅
	感度ランプ	赤色点滅	オレンジ色点滅	赤色点滅
	警報状態 受信感度	警報しない	カットダウンモード → スーパー感度モード → エクストラ感度モード	警報しない
解除時 MACシステム	パイロットランプ	オレンジ色点滅		
	感度ランプ		マニュアルモードで設定した受信感度のランプ色点滅。 カットダウンモード(赤色)/エクストラ感度(緑色)	
	警報状態 受信感度		警報する マニュアルモードで設定した受信感度	

警報中は音による振動を感知し、低速走行や、停車しても警報が続くことがあります。このようなときは、テスト&ミュートボタンを押して、警報をカットしてください。(24ページ参照)

便利な機能について

オートクワイアット/ディマー機能

警報音が約30秒以上続くと、自動的に音量が小さくなり、アラームランプやシグナルメーターなどのランプ類も暗くなります。

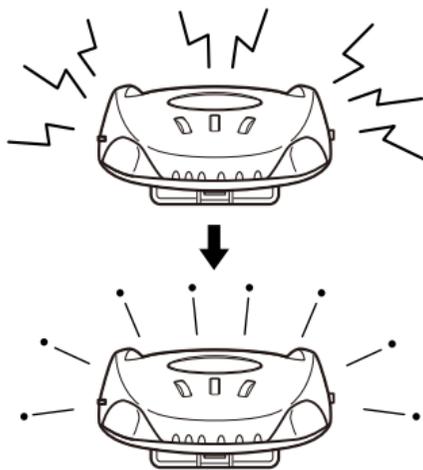
後方受信

iDSPによる超高精度識別およびエクストラ感度の高感度受信により、後方からの取締りレーダー波もシッカリ受信します。

ミュート機能

●取締りレーダー波の発信源の確認ができたら

警報中にテスト&ミュートボタンを押すと、受信中の電波がなくなるまで、警報音を一時的に消すことができます。



ターン・オン・ビーブ

電源スイッチを入れたときや、オートパワーON機能により電源が入ったとき、確認音が鳴り、電源が入ったことをお知らせします。



・バッテリーが消耗しているときは、ターン・オン・ビーブのあと、しばらくしてからローバッテリーアラームが鳴ります。

警報機能について

本機は、Wアラーム方式と接近テンポアップシステムの採用により、取締りレーダー波の存在をより確実に伝えていきます。

Wアラーム方式

音(メロディ/電子音)と光(アラームランプ/シグナルメーター)のダブルで警報します。

接近テンポアップシステム

各警報は、取締りレーダー波発信源への接近(電波の強弱)に合わせて変化します。

取締りレーダー波 発信源との距離	
電子音アラーム	断続音から連続音に変化します。
アラームランプ	点滅速度が変化します。
シグナルメーター	左から右へ点灯数が増し、右端へ達したあとに、全てが点滅します。

- ・メロディアラームはテンポアップしません。
- ・警報が続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。(オートクワイアット/ディマー機能)

本機はiDSP/統合的デジタル信号処理技術(integrated Digital Signal Processing Technology)により、ステルス型取締り機の「一瞬で強い電波」や、新Hシステムの「種類の異なる電波」に対しては、ただ単に警報するだけでなく、通常の警報音とは違うニアミスアラーム(㊦)ピロッピロッピロッ…)でお知らせします。**【ステルス識別】/【新Hシステム識別】**

さらに「自動車ナンバー自動読み取り装置」(Nシステム)を、取締り機とは区別して検知することに業界で初めて成功し、特別なNシステムアラーム(㊦)ピロロロ…)でお知らせします。**【Nシステム検知:特許出願中】**またカーナビからのGPSのモレ電波など妨害電波は、的確に識別し、誤警報を排除しています。さらに、温度変化などによる周波数ズレを自動補正しています。**【GPS排除:特許 第3044004号】**

※ iDSPを解除することはできません。

※ iDSPはステルス型の取締り機に対して完全対応というわけではありません。また、取締りには電波を使用しない光電管式などもありますので、先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。

ステルス識別について

ステルス型取締り機は他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知(受信)されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短時間強い電波を発射して、速度の測定ができる狙い撃ちの取締り機です。従来機では、先頭を走行せずに2番手以降で走行していても、一瞬しか警報されません。

- 警報が約30秒間続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。
- シグナルメーターの点灯が右端に達すると、すべてが点滅します。
- ニアミスアラームは、ミュート機能により、一時的に消すこともできます。
- 通常の電波を受信した場合でも、周囲の状況などにより、ニアミスアラームが鳴ることがあります。
- MACシステムがONで警報禁止状態のときは、ステルス波の受信および警報はしません。

取締り機(電波の種類)	シグナルメーター	警報音
通常の見取り機 (常時発射されている連続波)	左から右に点灯数が増えます。 → → →	選択した警報音が鳴ります。電子音は断続音から連続音に変化します。
ステルス型見取り機 (必要なときのみ、短時間発射される狙い撃ち的な連続波)	いきなり3つ点灯します。 → → →	ニアミスアラーム(ピロッピロッピロッ…)が鳴ります。
新Hシステム<新型オービス> (常時発射されている、種類の異なる電波)	段階的に点灯数が増え、2つ以上で新Hシステムを識別します。 → → →	選択した警報音で鳴りはじめ、新Hシステムを識別するとニアミスアラームが鳴ります。

新Hシステムについて

電波を用いる自動速度見取り機(オービス)の一種ですが、他のオービスとは種類の異なる電波(周波数は同一)を使用しているため、従来機では探知(受信)しにくくなります。ただし、このシステムでは証拠の記録をする前に、電光掲示板で「速度オーバー」や「速度超過」などの警告がありますので、これらの警告を見かけたら注意してください。



Nシステム検知について

「自動車ナンバー自動読み取り装置」通称『Nシステム』は新Hシステムなどに似ていますが、レーダー波を使用した取締り機ではないため、従来機では通過しても何も反応しませんでした。そのため、「新型の取締り機ではないか?」といった疑問や不安を持ちながら運転していた人も多かったようです。本機は、このNシステムが発している特殊な信号を、識別および検知し、さらに、スピード違反の取締りとは区別して、Nシステムアラームでお知らせします。**【Nシステム検知：特許出願中】**

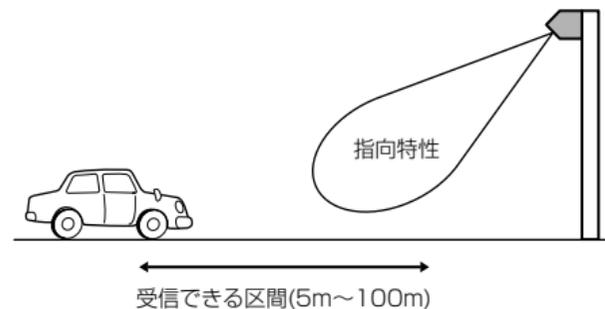
<Nシステムを検知すると>

- 『ピロロロ…ピロロロ…ピロロロ…』とNシステムアラームでお知らせします。



- Nシステム検知後、1分以内にもう1度Nシステムを検知しても、Nシステムアラームは鳴りません。
- Nシステム検知中に、取締りレーダー波を受信すると、取締りの警報音が優先されます。

- Nシステムは取締り機ではなく、その名のとおり「自動車ナンバー自動読み取り装置」であり、その信号の指向角が鋭いため、信号を受信できる区間が5m～100mと短くなります。そのため、走行中にNシステムを検知しても、Nシステムアラームが、直前または通り過ぎてからのように感じる場合もあります。



- Nシステムは常時稼働しているとは限りません。稼働していない状態では信号を受信できませんので、Nシステムの検知はできません。
- Nシステムが発しているものと同種の信号を使用している次の機器については、誤検知する場合があります。
 - ・オービスのカメラ
 - ・高速道路入り口のナンバー読み取り装置
 - ・駐車場入り口のナンバー読み取り装置
 - ・Tシステム(旅行時間予告システム)
- 次のようなとき、ごくまれに誤検知する場合があります。
 - ・液晶カメラやカーナビの画面に、本機を直接向けたとき
 - ・朝日または夕日(地平線または水平線に近い状態)に向かって走行しているとき
 - ・バイクなどのイグニッションノイズ

GPS排除について

カーナビゲーションの中には、取締りレーダー波と同一周波数帯の電波を漏洩しているものがあります。従来機では、これが原因で警報が鳴りっぱなしになることがありましたが、この電波を安易に排除すると、肝心の取締りレーダー波に反応しないという、相反する問題がありました。

本機では、取締りレーダー波にはしっかり反応するよう、取締りレーダー波や自動ドアの電波とのわずかな違いを的確に識別することにより、GPSの漏洩電波のみを自動排除し、誤警報を防止しています。**(自動識別&排除設定機能)**

さらに、自動設定後も、一定の間隔で排除設定の内容および温度変化などによる周波数変動の状態を常にチェックし、変化があれば自動的に補正し、誤警報を排除しています。

(自動補正機能) 【特許 第 3044004 号】

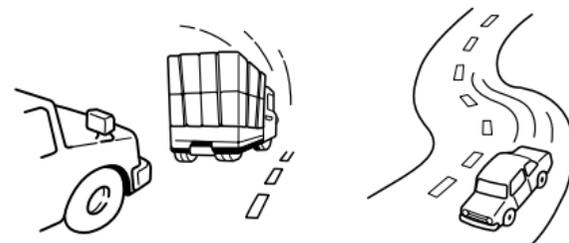
※カーナビゲーションからの影響を排除している場合、受信している電波の識別判定がしにくく、新Hシステムやステルス波に対しても通常の警報音となる場合があります。

※自動ドアなど、常に電波の出ている場所でエンジンを始動すると、GPSを排除できない場合があります。このようなときは電波の出ている場所から移動して、再度、本機の電源スイッチを入れ直してください。

受信しにくい場合

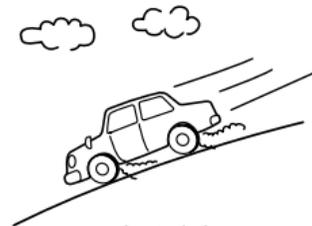
電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、取締りレーダー波を受信しにくいことがあります。

- 前に走行している車(とくに大型車)がある場合や、コーナー、坂道では、電波が遮断され、探知距離が短くなることがあります。スピードの出やすい下り坂では、とくにご注意ください。
- 対象の車が近くに来るまで、電波を発射しない狙い撃ち的な取締りができる、ステルス型のスピード測定装置があります。



〔前に走行中の車がある場合〕

〔コーナー〕



〔下り坂〕

電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輛通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。『いつも鳴るから』と安心せずに注意してください。

取締りのミニ知識

本機と、取締りの方法や種類をよくつかんで、上手にご使用ください。制限速度を守り、安全運転を心がけることが大切です。

スピード違反の取締り方

大きく分けて3つの方法があります。

1. 追走して測定する方法 (追尾方式)

指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

※本機は後方受信しますが、この追尾方式は電波を出しておりませんので、受信および警報することはできません。

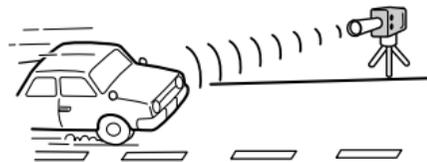
2. 距離と時間で算出する方法 (光電管式、ループコイル式)

一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や埋め込みの磁気スイッチなどが使われています。

※これらの方式は電波を出しておりませんので、受信および警報することはできません。

3. 電波を使って算出する方法 (レーダー方式)

電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化(ドップラー効果)で速度を算出します。



現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流となると思われます。

取締りレーダー波について

取締りレーダー波は、発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

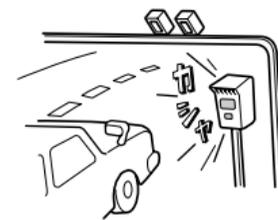
定置式

人が測定装置を道路際に設置して行います。取締りレーダー波は、直進性が強いので、発射角度が浅いほど、探知しやすくなります。



自動速度取締り機(オービスⅢ)

速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。



移動式

測定装置をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。

Kバンドについて

Kバンドは、米国ですでに使用されている取締りレーダー波の周波数で、日本国内でも使用される可能性があります。本機は、現在国内で使用されているXバンドに加え、Kバンドも受信できるX・Kツインバンド対応です。

本機はレーダー方式のスピード測定装置に対応します。

※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

故障かな?と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または弊社営業所・サービス部にご相談ください。

症状	チェック項目
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチがONになっていますか。 バッテリーが消耗していませんか。シガープラグコードを使って充電してください。 オートパワーOFF機能が働いていませんか。停車や駐車の状態が約3分以上続くと、自動的に電源が切れます。
充電できない	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光を十分に当てても充電できないときは、シガープラグコードを使って充電できるか確認してください。 シガープラグで充電できないときは、シガープラグ内部のヒューズが切れていないか確認してください。切れている場合は、同じ容量(1A)の新しいヒューズと交換してください。
MACシステムやASS機能、オートパワーOFF機能が正常に働かない	<ul style="list-style-type: none"> ご使用になる車種に合わせて、MACレベルスイッチで振動の検出感度を調整してください。振動が極端に大きな車種や、走行中と停車中の振動に違いの少ない車種では正常に働かないことがあります。そのような車種では、MACシステムを解除してご使用ください。また、振動や騒音の激しい場所に駐車するときは、電源を切ってください。 警報中は音による振動を感知し、低速走行や停車しても警報が続くことがあります。このとき、警報をカットする場合は、テスト&ミュートボタンを押してください。
反応(警報)しない	<ul style="list-style-type: none"> 電源が入っていましたか。パイロットランプの点滅を確認してください。 警報機能が正しく働きますか。テスト&ミュートボタンを押して確認してください。 MACレベルスイッチが正しく設定されていますか。パイロットランプが赤色で点滅していませんか。パイロットランプが赤色で点滅しているときは警報しません。MACレベルスイッチを正しい位置に設定しなおしてください。MACレベルスイッチを切り換えても振動を検出しにくい場合は、取り付けかたを変えてください。 オートパワーOFF機能が働いていませんか。停車や駐車の状態が約3分以上続くと、自動的に電源が切れます。走行中でもオートパワーOFF機能が働く場合は、MACレベルスイッチを設定しなおしてください。MACレベルスイッチを切り換えても振動を検出しにくい場合は、取り付けかたを変えてください。

症状	チェック項目
反応(警報)しない	<ul style="list-style-type: none"> 取締りレーダー波が発射されていたか。計測する瞬間だけ電波を発射するステルス型など、取締り準備中あるいは終了後などで、スピード測定装置から取締りレーダー波が発射されていないことがあります。(とくにオービスⅢではよくあります) 取締りが「レーダー方式」で行われていたか。
取締りもしていないのに警報機能が働く	<ul style="list-style-type: none"> ローバッテリーアラームではありませんか。バッテリーランプが点滅しているときは、シガープラグコードを使って充電してください。 取締りレーダー波と同じ電波が他でも使用されています。それらの電波を受信すると警報機能が働くことがありますが、故障ではありませんので、ご了承ください。 ——取締りレーダー波と同じ電波を使用している主な機器—— 電波式の自動ドア、防犯センサー 信号機の近くに設置されている車輛通過計測機 NTTのマイクロウェブ通信回路の一部 気象用レーダー、航空レーダーの一部 他のレーダー探知機の一部 まれに他の無線機の影響を受けることがあります。その場合は取り付け位置を変えてみてください。
警報の途中で警報音が小さくなりランプ類も暗くなる	<ul style="list-style-type: none"> 警報が約30秒以上続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。
カーナビゲーションの影響を排除できない	<ul style="list-style-type: none"> 自動ドアなどの常に電波の出ている場所でエンジンを始動した場合、GPSを排除できないことがあります。このようなときは、電波の出ていない場所へ移動して、もう1度本機の電源スイッチを入れ直してください。
Nシステムを検知できない	<ul style="list-style-type: none"> Nシステムセンサーがサンバイザーやフロントガラスのスモークなどで、感知しにくくなっていませんか。取り付け場所を変更してみてください。 Nシステムは稼働していましたが、稼働していない場合は、検知できません。 一部の車種に採用されているUVカットガラスにより、検知しにくい場合があります。

仕様

電源電圧	: DC 3.6V(ニッケル水素電池1.2V×3) DC 12V/24V(シガープラグ入力電圧)	本体外形寸法	: 68(W)×23(H)×97(D)mm (突起部を除く)
消費電流	: 待機時:5mA以下 最大:50mA以下	本体重量	: 113g
受信方式	: スイープオシレーター式ダブルスーパーヘテロダイン方式		
受信周波数	: Xバンド、Kバンド		
動作温度範囲	: -10℃～+85℃ (充電可能温度範囲-5℃～+85℃)	本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。	

アフターサービスについて

1. 保証書(裏表紙参照)

保証書は、必ず「販売店・お買い上げ年月日」をご確認のうえ、保証内容をよくお読みになって、大切に保管してください。

2. 保証期間

お買い上げの日から1年間です。

3. 対象部分

機器本体(消耗部品を除く)

4. 修理をご依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」で確認しても、なお異常があると思われるときは、使用車名(車種)、機種名(品番)、氏名、住所、電話番号、購入年月日、保証書の有無と故障状況をご連絡ください。

● 保証期間中のとき

保証書裏面の「故障内容記入欄」にご記入いただき、お買い上げの販売店まで、保証書とともに、機器本体をご持参ください。保証書の内容にしたがって修理いたします。

● 保証期間が過ぎているとき

まず、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。

5. **アフターサービス等についてご不明の点は**
お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にお問い合わせください。